日本語

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京都美術館

［日本語］

ご案内／展覧会

2024.7 ～ 2025.6

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京都美術館の使命

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、
芸術家の卵が初めて出品する、障害のある方が何のためらいもなく来館できる――、
すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。
新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、
「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。
そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

東京都美術館の歩み

1926（大正15）年 ▶ 東京府美術館の創設

実業家・佐藤慶太郎から、当時の金額で100万円（現在の40億円相当）の寄付を受け、日本初の公立美術館として、1926年5月1日に開館。美術団体等による新作発表のほか、美術作家の回顧展や国内外の名品を紹介する展覧会を開催し、「美術の殿堂」として広く美術の魅力を伝える役割を担いました。

※1943（昭和18）年の都制施行に伴い、「東京都美術館」に名称変更

佐藤慶太郎（さとう・けいたろう）

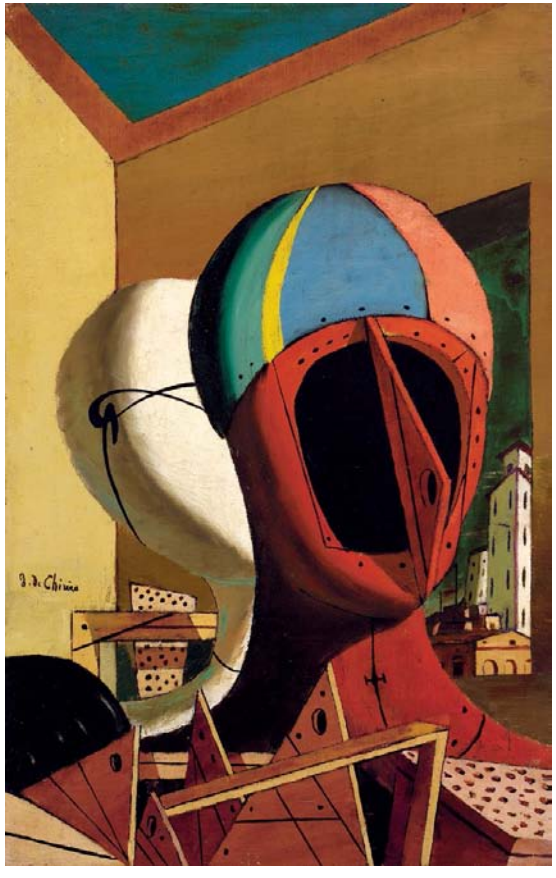
1868（明治元）年 - 1940（昭和15）年。北九州市生まれ。「石炭の神様」と称された実業家。アメリカの鉄鋼王アンドリュー・カーネギーの慈善活動に共感し、東京府美術館の建設のほか、奨学金の創設や病院への寄付、国民生活改善運動の研究など、公共のために私財を投じました。

1975（昭和50）年 ▶ 新館の開館

旧美術館が手狭となり老朽化したため、前川國男の設計による新しい美術館を建設。生まれ変わった「東京都美術館」は、学芸員による企画展や作品収集にも力を注ぎ、本格的な美術館として活動を開始。今日のワークショップの源流となる教育普及活動をはじめ、一般に開放される美術図書室など、公立美術館の運営のさきがけとして活動しました。1995（平成7）年、東京都現代美術館の開館にともない、約3千点の収蔵作品と約5万冊の美術図書資料を移管しました。

2012（平成24）年 ▶ リニューアルオープン

多くの人々に親しまれた前川建築を受け継ぎつつ、ユニバーサルデザインを採り入れ、レストランやショップなども充実させる大規模な改修工事を実施。新たな企画展やアート・コミュニケーション事業を開始するなど、美術館としての魅力をより一層向上させる方針のもと、2012年4月1日に「新生・東京都美術館」として再出発しました。



ジョルジョ・デ・キリコ《形而上的なミューズ》1918年 カステッロ・ディ・リヴォリ現代美術館
（フランチェスコ・フェデリコ・チェッルーティ美術財団より長期貸与）

© Castello di Rivoli Museo d'Arte Contemporanea, Rivoli-Turin, long-term loan from Fondazione Cerruti
© Giorgio de Chirico, by SIAE 2024

デ・キリコ展

Giorgio De Chirico: Metaphysical Journey

2024年4月27日（土）～8月29日（木）

田中一村《アダンの海辺》昭和44年（1969） 個人蔵

© 2024 Hiroshi Niiyama

田中一村展　奄美の光 魂の絵画

Tanaka Isson: Light and Soul

2024年9月19日（木）～12月1日（日）

特別展

デ・キリコ展

Giorgio De Chirico: Metaphysical Journey

2024年4月27日（土）～8月29日（木）

20世紀を代表する巨匠の一人、ジョルジョ・デ・キリコ（1888-1978）のおよそ70年にわたる画業を、初期から晩年までの作品で余すところなく紹介。デ・キリコが描いた世界をたどる、日本では10年ぶりの大規模な回顧展です。

ジョルジョ・デ・キリコ《イタリア広場（詩人の記念碑）》1969年
ジョルジョ・エ・イーザ・デ・キリコ財団
© Fondazione Giorgio e Isa de Chirico, Roma
© Giorgio de Chirico, by SIAE 2024

企画展

大地に耳をすます　気配と手ざわり

The Whispering Land: Artists in Correspondence with Nature

2024年7月20日（土）
～10月9日（水）

人と自然との関係を問い直し、結び直すような活動をつづける現代作家5人（榎本裕一、川村喜一、倉科光子、ふるさかはるか、ミロコマチコ）に注目。写真、木版画、油彩画、水彩画、インスタレーションなど多彩な作品を展示します。

川村喜一《2018.1121.1043》2018年 作家蔵

特別展

田中一村展　奄美の光 魂の絵画

Tanaka Isson: Light and Soul

2024年9月19日（木）～12月1日（日）

画家・田中一村（たなか・いっそん／1908-1977）の大回顧展です。神童と称された幼年期から、奄美での最晩年の作品まで、独自の歩みを貫いた「不屈の情熱の軌跡」をご覧いただきます。関連資料も充実の展覧会です。

田中一村《不喰芋と蘇鐵》昭和48年（1973）以前 個人蔵
©2024 Hiroshi Niiyama

企画展

上野アーティストプロジェクト2024
ノスタルジア―記憶のなかの景色

Ueno Artist Project 2024: Nostalgia ―Scenery in Memory

2024年11月16日（土）～2025年1月8日（水）

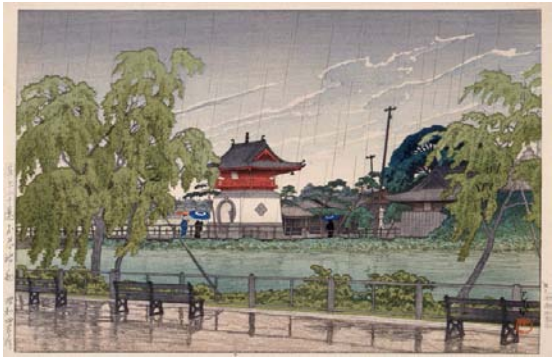
公募展覧会で作品発表をつづけている8名の作家、阿部達也、南澤愛美、芝康弘、宮いつき、入江一子、玉虫良次、近藤オリガ、久野和洋を紹介します。日常の風景、子どもたちのいる情景、そして幻想的な表現も含めて、ノスタルジア（懐かしさ）を表した多様な絵画を展示します。

芝康弘《六月の詩》2011年
東京オペラシティ アートギャラリー蔵

コレクション展

懐かしさの系譜―大正から現代まで　東京都コレクションより

Tokyo Metropolitan Collection Exhibition: Genealogy of Nostalgia ― From the Taisho Era to the Present



川瀬巴水《東京二十景 不忍池の雨》1929年 東京都江戸東京博物館蔵

2024年11月16日（土）～
2025年1月8日（水）

東京都が所蔵する豊富なコレクションの中から、懐かしいふるさとや昔日の情景をとらえた絵画などにくわえ、現代の都市郊外を映した写真などを紹介します。個人はもとより時代や世代、地域によって異なる「懐かしさ」とはどんな感情なのでしょうか?

特別展

ミロ展

Joan Miró

2025年3月1日（土）～7月6日（日）

20世紀美術を代表する、スペイン出身の巨匠ジュアン・ミロ（1893～1983）。その画業の全体を、初期から晩年までの代表作によってご紹介します。幅広い層を魅了するミロ作品の真髄を体感できる大回顧展です。

ジュアン・ミロ《夜の中の女と鳥》1945年
個人蔵（ジュアン・ミロ財団に寄託）

公募団体展・学校教育展

開館以来、美術や書などの公募団体に、作品発表の場を提供しており、現在は年間約260団体が「つくる喜びを共有する場」としてさまざまなジャンルの展覧会を行っています。また、美術系の高校や大学の卒業制作展や、児童生徒の作品展も数多く開かれています。

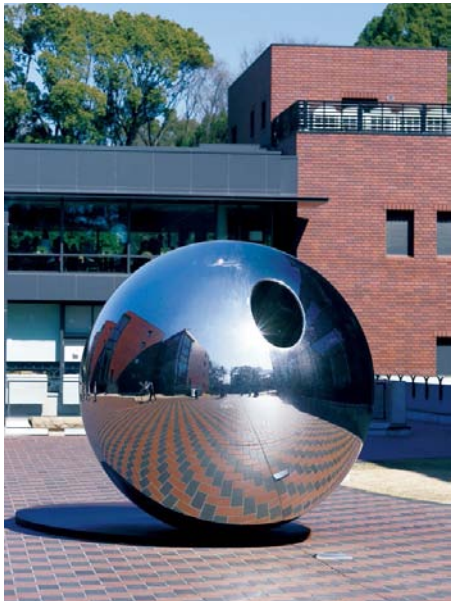
収蔵品の紹介

東京都美術館では、野外彫刻等の立体作品13点と書作品36点を収蔵しています。

青山杉雨《車馬囂々》

建畠覚造《さ傘（天の点滴をこの盃に）》1973年

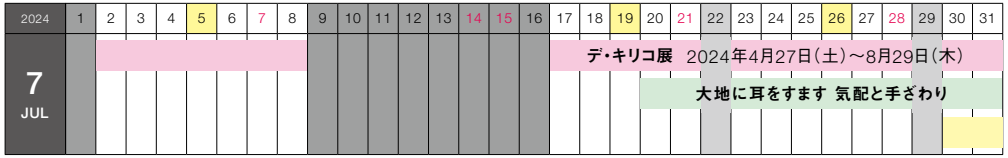
最上壽之《イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツネ……ン》1979年

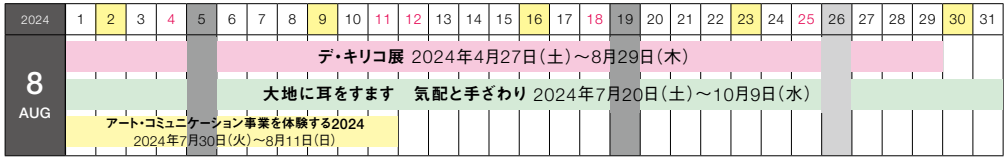


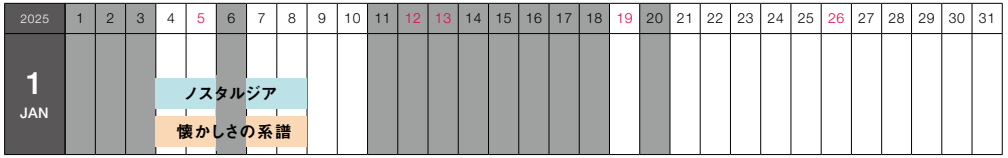
井上武吉《my sky hole 85-2 光と影》1985年

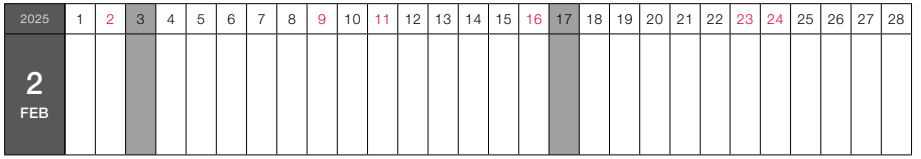
カレンダー

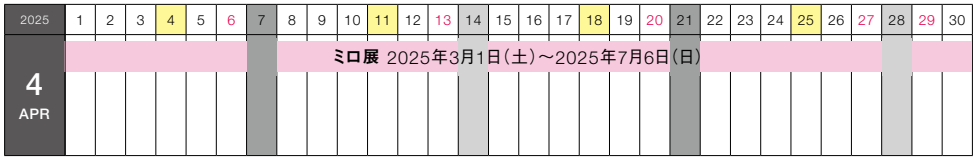
■ 全館休館日 → 第1、第3月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）、整備休館、年末年始
■ 特別展・企画展休室日 → 月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
■ 夜間開館日 → 9:30-20:00（入館は閉館30分前まで）

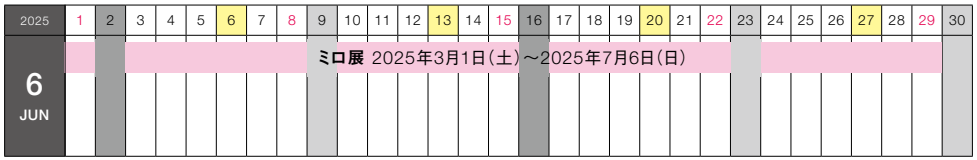












※最新の情報は、東京都美術館ウェブサイトをご覧ください。

アート・コミュニケーション事業

アートを媒介として、人々のつながりをはぐくむ活動をしています。
美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、
さまざまなプログラムを実施しています。

東京都美術館×東京藝術大学
とびらプロジェクト

東京都美術館と東京藝術大学、一般公募のアート・コミュニケータ（とびラー）が協働して行っている「ソーシャル・デザイン・プロジェクト」です。美術館を拠点に人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、さまざまな価値観を持つ多様な人々を結びつけるコミュニティのデザインに取り組んでいます。

museum start あいうえの since 2013

©Yusuke Nakajima　　国立科学博物館 ©Ryo Fujishima

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、こどもたちの“ミュージアム・デビュー”を応援。こどもと大人がフラットに学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。年間を通じて、小・中・高校生がミュージアムを活用することを目的としたプログラムを行っています。

Creative Ageing ずっとび

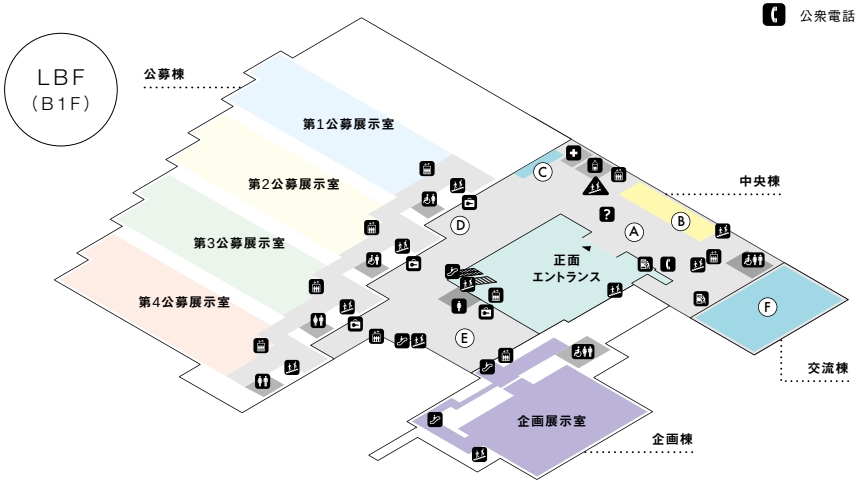
東京都美術館は、こどもから高齢の方まで、歳を重ねてからも「ずっと」通いたくなる美術館でありたいと考え、超高齢社会に対応する事業を始めました。歳を重ねる中で、作品と人がクリエイティブに出会える参加型のプログラムなどを作っていきます。

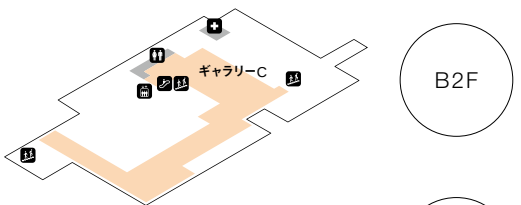
2012年に始まったアート・コミュニケーション事業の歩みや実践を、体験を通じて紹介し、事業についてより多くの方に知っていただく機会として、毎年夏に「アート・コミュニケーション事業を体験する」を開催しています。当館のロビー階第3公募展示室を会場に、作品を介したコミュニケーションや参加型プログラムが楽しめる展覧会です。会場にはアート・コミュニケータ（とびラー）及び任期満了したとびラーが常時滞在します。

© Nacása & Partners Inc. FUTA Moriishi

館内のご案内

インフォメーション
トイレ
車椅子用トイレ
ロッカー
救護室
授乳室
エレベーター
エスカレーター
階段
カフェ
レストラン
自動販売機
公衆電話



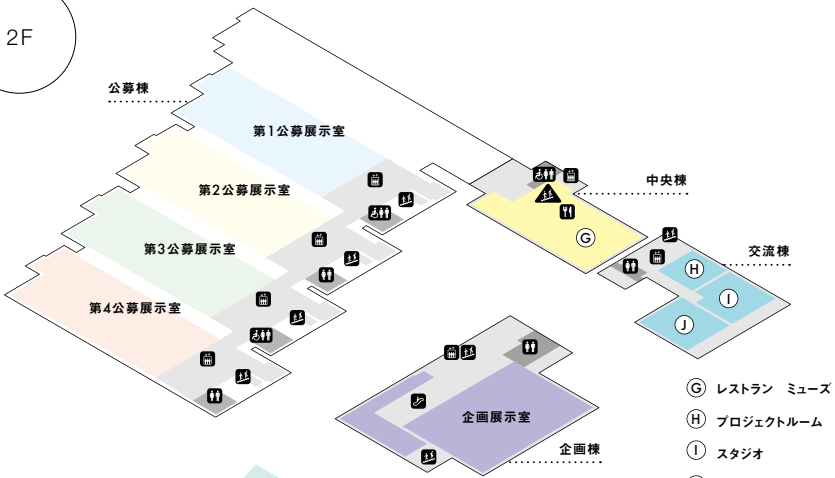


B2F

B3F

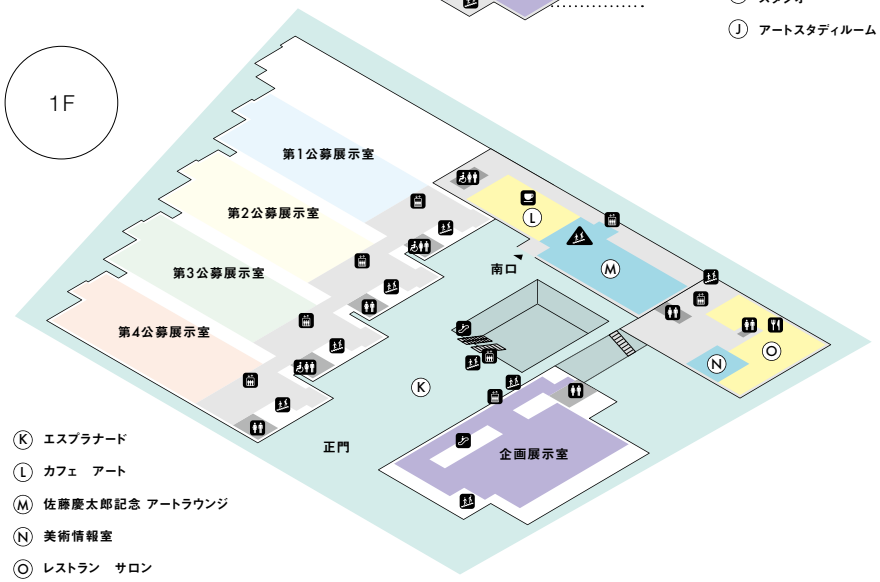
Ⓐ エントランスロビー
Ⓑ ミュージアムショップ
Ⓒ チケットカウンター
Ⓓ 公募棟ホワイエ
Ⓔ 企画棟ホワイエ
Ⓕ 講堂

2F



Ⓖ レストラン　ミューズ
Ⓗ プロジェクトルーム
Ⓘ スタジオ
Ⓙ アートスタディルーム

1F



Ⓚ エスプラナード
Ⓛ カフェ　アート
Ⓜ 佐藤慶太郎記念 アートラウンジ
Ⓝ 美術情報室
Ⓞ レストラン　サロン

館内施設のご案内

アメニティ事業

ミュージアムショップ

オリジナルグッズから伝統工芸品まで、日々を豊かに彩るアイテムを取り揃えています。

面積：127㎡／Tel. 03-5685-9110

中央棟LBF（B1F）

RESTAURANT MUSE（レストラン ミューズ）

洋食を中心に和食、キッズメニューも。お気軽にご利用いただけるカジュアルレストラン。

面積：481㎡／席数：200席／Tel. 03-5832-5551

中央棟2F

RESTAURANT salon（レストラン サロン）

本格フレンチダイニングをご提供。席の予約ができ、個室のご用意もあります。

面積：249㎡／席数：50席／Tel. 03-5832-5101

交流棟1F

cafe Art（カフェ アート）

コーヒーやスイーツ、軽食をご用意。アートの合間にほっとひと息。

面積：103㎡／席数：50席／Tel. 03-5832-5566

中央棟1F

貸出施設

佐藤慶太郎記念 アートラウンジ

北欧デザインの椅子に座ってゆっくり休憩できるラウンジです。

面積：391㎡／席数：46席

中央棟1F

講堂

講演会やシンポジウム、授賞式などが行えます。

面積：284㎡、舞台30㎡／定員：230名
（固定椅子225席＋車椅子用スペース 5席）

交流棟LBF（B1F）

美術情報室

美術図書・図録・雑誌などをゆっくり閲覧できるライブラリー。

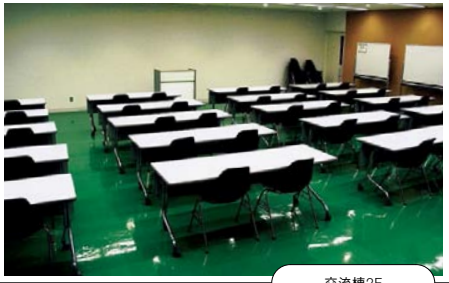
面積：88㎡／席数：14席／蔵書冊数：約6万点

交流棟1F

スタジオ

会議や制作などを行う多目的室です。

面積：146㎡／定員：50名



交流棟2F

アクセシビリティ

車いすをご利用の方へ

館内でご利用いただける車いすの貸出をしています。車いす対応トイレも各フロアにあります。

車いす：28台（自走介助兼用）／無料

インフォメーションにて貸出

小さなお子さま連れの方へ

個室スペースのある授乳室をはじめ、ベビーカー貸出やミルク用お湯のサービスもあります。

ベビーカー：5台（対象月齢1〜48か月）／無料

インフォメーションにてご案内

だれでもトイレ

大人が横たわれるサイズの介助用ベッドやオストメイト対応を備えた多機能トイレがあります。

インフォメーションにてご案内

コミュニケーション

インフォメーションでは、英語、中国語に対応しています。また、コミュニケーションボードのご用意のほか、土日は手話でご案内をしています。

インフォメーションにてご案内

ご利用案内

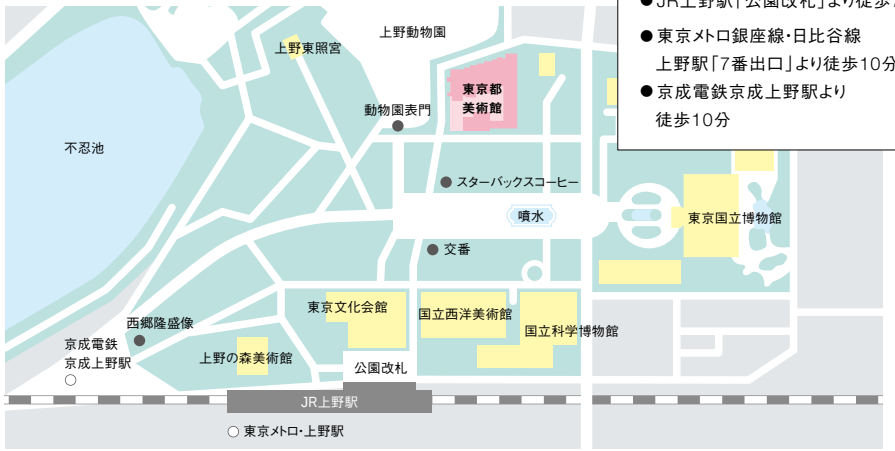
［開館時間］　9:30－17:30
※特別展開催中の金曜日は9:30－20:00　※いずれも入館は閉館時間の30分前まで

［休室日］　特別展・企画展：月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
上記以外の展覧会：第1、第3月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）

［全館休館日］　第1、第3月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）／年末年始、整備休館

［入館料］　無料。観覧料は展覧会ごとに異なります

- JR上野駅「公園改札」より徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅「7番出口」より徒歩10分
- 京成電鉄京成上野駅より 徒歩10分



※駐車場はございませんので、車での来館はご遠慮ください。

施設概要

○敷地面積：16,638.84㎡ ●建築面積：7,999.47㎡ ●延床面積：37,748.81㎡
［企画展示室］●LBF（B1F）：709㎡ ●1F：713㎡ ●2F：714㎡ ※天井高4.5m
［公募展示室］●LBF（B1F）第1・第2・第3・第4：3,040㎡ ●1F 第1・第2・第3・第4：3,040㎡ ●2F 第1・第2・第3・第4：3,040㎡ ※全12室、天井高4.8m
［ギャラリー］●A（B3F）：412㎡、天井高 9.9m ●B（B3F）：303㎡、天井高3m ●C（B2F）：470㎡、天井高 2.4m／5.8m

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
Tel. 03-3823-6921／Fax. 03-3823-6920
［ウェブサイト］https://www.tobikan.jp
［X（旧Twitter）］tobikan_jp／tobikan_en
［Facebook］TokyoMetropolitanArtMuseum

発行日：2024年7月31日
発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
デザイン：opportune design Inc.
印刷：株式会社オノウエ印刷
© Tokyo Metropolitan Art Museum

最新情報は、当館ウェブサイトでご確認ください。

館発行の広報誌「東京都美術館ニュース」も是非ご覧ください。

FSC
www.fsc.org
ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C121895

VEGETABLE OIL INK

日本語

東京都美術館

TOKYO
METROPOLITAN
ART
MUSEUM

ご案内／展覧会
2024.7 ～ 2025.6

ミロコマチコ《2匹の声》（部分）2022年 作家蔵
Photo: Yuichiro Tamura